

項	育てたい 子供の姿	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己 評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 左欄(学校関係者からいただいた評価・意見等) を踏まえての改善策には、下線
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む	ひとを たから」ととらえ、神戸を愛し、支える「人財」を地域とともに育てる学校	神戸の魅力を知り、将来の神戸を担う人材の育成	○神戸を中心とした産学民公の連携を積極的に推進するなかで、国際的な視野を広げていくとともに、様々な観点から課題解決に向けた実践的な方法を学ぶ	・インターンシップやバスツアーなど、実践的な学習ができている。 ・「神戸ディスカバー」「私の流儀」「課題研究」で実践できている。 ・神戸という土地性を鑑み、外国からの留学生など、異なる言語や文化との交流機会を設けていきたい。 ・課題研究において、神戸市の活性化をテーマにしたり、台湾との交流を研究をしたりと、実践的な取組ができたように感じている。	3.2	・他国との交流機会を増やすことはよいことだと思う。 ・今後も兵庫区の魅力向上やまちづくりの課題解決に向け、各世代で「気づき・考え・行動する」ができるよう、行政(区役所まちづくり課)として協働していきたい。 ・人財(たから)育成として、様々な取り組みをされており 従来の商業科より一歩進んだ教育をされており、非常に感心しました。また生徒さんが作成されているスライドなども非常に手が込んでおり、ご自身がしっかりと考えたうえで作成されているのが伝わってまいりました。 この様な学びや取り組みは社会に出てから、必ず役に立つと思います。また地域に根付いた教育をされており、今後神戸の魅力を世界に発信出来る人財が輩出されることを楽しみにしております。 ・課題研究やインターンシップ等の校外活動に今後も取組んで頂きたい。感じる、考える、行動する、表現する…といった大人に必要な要素が沢山含まれ、座学では得られない貴重な経験ができるとともに、地域への愛着の向上にも資する稀有な取組だと思います。特に「店寄らん？ガイド」は、区の魅力発信にもつながる素晴らしい取組だと感じています。	・課題研究の指導法を全教員が学習すべきである。 ・より多くの関係者のところに足を運んで意見を集め検討すると、広範な視点から実現性の高い研究ができるのではないかと。 ・課題研究設定テーマをより地域性の高いものとなるよう指導し、新たな視点から地域貢献する生徒を育成する。
			○課題研究における成果の提案等を、PPT等を用いて効果的に発信する能力を育成する	・発表の機会は多く確保されている。スライドの工夫などもみられる。 ・内容の濃い、よい発表が多くみられる。 ・改善・向上しているが、専門性が高いがゆえに担当者間の指導力や取組に差が生じていることも事実である。	3.4	・テーマによっては、次年度以降に引き継ぎ研究を深めるとより良い経験ができる。 ・どのテーマも分析や評論に終わらず、改善策・事業化・商品化の提案まで行っている。 ・多くの発表会があり、生徒が力を伸ばしていくのを感じた。 ・商業科の特徴を生かしながら、神港橋高校らしい特徴ある学びを実践できている。	・課題研究では、項目を絞りもっと深く研究するよう指導する。 ・研究テーマ設定の段階で指導する側から適切なアドバイスを投げかけたい。 ・講座間の交流を機会をさらに増やし、取組に対する競争意識の向上を図る。
			○総合的な学習(探究)の時間をはじめ、学校全体を通して課題解決型道德教育を推進する	・全教員で指導にあたり、モラルジレンマに関わっている。 ・社会の課題解決に向けて生徒もしっかり取り組んでいる。	3.0	・人が社会で生きていく力をもっと指導して頂きたい。「不易流行」時間とともに変わってはいけないもの、変らなくてはいけないものがあることを考える授業が大切と考えます。 ・全教員がモラルジレンマに関わっていて、生徒もしっかりと取り組んでいるとなっているのに、自己評価が他の項目と比べて低いように思う。まだまだ関わりが不十分なのか、別に課題があるのであれば、その点を記載して改善策を検討した方が良い。	・多様な進路希望を実現するためにも、職業人モラルについて考え実践していく機会を作る。 ・各教員の意思統一を図り、課題改善に取り組んでいく。 ・防災教育、道德教育(ボランティア活動)について、生徒に広く周知、学習させ、意識醸成に取り組む。
		思いやりや礼節を重んじ、職業人としての責任や倫理観を持って行動できる人材の育成	○商業科目の学習を通した商業教育の充実を図る	・1年の簿記において、少人数制を再開し、きめ細やかな指導を行うことができた。 ・学力の差があるので、更に丁寧な指導が必要である。	3.4	・目標が達成できていると感じる。 ・全商1級取得者が増加している。MSCから個別に検定取得スケジュールが配布される等きめ細やかな対応のおかげで聞いている。進学・就職に特化したこのような部署があることは、学校にとって非常にプラスになっていると思う。 ・1年時は少人数授業が取り組んでいるのに評価が低いように思う。1年生の成果がまだまだなのか、他学年も少人数授業を実施すべきなのか、その点を記載して改善策を検討した方が良い。	・関係する教員の意識・取組をそろえる。 ・進路指導のより一層の系統化をはかり、全教員が情報共有したうえでより丁寧な指導を心がけ、一部教員の負担とならないよう体制強化する。 ・次年度より3年生数学において分散授業を展開する予定である。習熟度別に、可能な限りきめ細かい指導が展開されるよう、人事面でも改善を図ってきたい。
			○授業規律及び規則正しい学校生活を確立する	・全教員の足並みをそろえた生徒指導ができていない部分があり、共通理解が可能なルールづくりが急務である。 ・生徒は指導の意図が理解できれば素直に改善できる。 ・教員が授業前に教室に行き、チャイムと同時に授業開始ができるようにしている。 ・授業開始前に、服装を正すように促し、挨拶を徹底している。 ・登校時に服装を正すことはできているが、校舎内では乱れている生徒が多いことが課題。	2.8	・教員間で足並みをそろえた取組と同時に、一人の教員がどの生徒にもムラなく支援することも必要。 ・学校生活では、規律こそ大事。今後も改善の取組を行ってください。 ・教員の性格、勤続年数(経験)によって指導や考え方が異なるので、入学時や学年が変わる最初のタイミングで、しっかりとかつ丁寧に、学校のルール(校則等)を指導する必要がある。怒ったり、厳しい口調で言ったりする必要はないが、見て見ぬふりをする、そこから風紀が乱れ、治まらない状況になることがある。適切なタイミングで指導を行うことが重要であり、経験を積んだ教員が、生徒指導を苦手とする教員に、定期的に打ち合わせ等を行うことが望ましい。 ・全教員が適切なタイミングで生徒指導を行うことで、服装の乱れがゼロにはならないが、かなり減少(改善)すると思われる。 ・校内に入ると多くの生徒から挨拶を受ける。このような良い習慣は今後ともなくならないように継続して指導して欲しい。 ・生徒たちが自ら校則について考え、議論する機会はおありですか？高校生ではまだまだ難しいかもしれませんが、校則に対する生徒全体の想いの現状把握、校則変更によりどんな悪影響がでるかの検討、など生徒自らが考えて行動できるようにになればより素晴らしいと思います。	・教員全体でルールを共有する機会、生徒に周知する機会をより設ける。 ・保護者との連携と、最低限守らせたい基準を全教員で共有する。 ・新ルール運用の前に、改めて本校の生徒指導が目指すところを明確にし、令和の時代に相応しい、生徒の自主性伸長を目的とした生徒指導の実行に向けて教員の意思統一を図る。
			○少人数授業の実施。「情報処理」は、1学期はTT、2学期は目標別に分かれて展開する	・1年「簿記」「情報処理」では少人数クラスでの授業展開を行い、成果が出てきたところと思われる。 ・1年時では取り組んでいるが、すべての学年で充実を図りたい。	3.0	・実社会に出た時に生きる資格検定の充実を図っていただきたい。 ・生徒の「やればできる」という自信につなげていってほしい。 ・学校で学ぶ様々な事象は経済状況の変化に関連していると考ええる。経済とのつながりをより深く教えてほしい。 ・少人数クラスでの指導、類型別での指導など、3年間を通した指導の成果が、進学や就職の実績として、表れていると思う。	・商業科だけでなく英語科においても少人数授業の展開を行っている。ハード面・ソフト面で可能であれば、展開を広げていきたい。 ・学力保障(底上げ)と進路対応(進学希望者対応)の両面指導を計画的に行う。 ・教員定員数の制限の中においても、よりきめ細やかな学習指導を今後も検討していく。
		社会の変化に対応できる専門知識・技能や柔軟性をもった人材の育成	○2年生では、「会計類型」と「情報類型」を設定して専門性を深める	・検定に向けても類型別にすることで、取り組みやすくなっている。 ・2年生の開発コースでは、情報処理検定1級2種目、国家試験ITパスポートを目指す取組をしている。	3.4	・深く掘り下げること、進学を見据えた科目選択の両立は難解な問題であると考えました。 ・両分野の専門性を高めることができるように、教育課程の工夫を推進すべき。 ・類型選択では、保護者にも十分理解してもらうことが大事。	・会計が情報のどちらかではなく、両分野の専門性を深めたい生徒は少なからず存在する。教育課程を工夫して実現させたい。 ・類型ごとに集会などの行事を実施し、類型のアイデンティティを強化する。
			○3年生では、多様な選択科目を配置し、進路や興味関心に応じて科目を選択するなかで専門性を深める	・自ら選んだ科目を勉強できることもあり、生徒の専門性も深まっている。 ・選択科目を学年の担当者中心に丁寧に説明することで、できるだけ希望する科目が選択できるように配慮した。生徒の関心が高い「スポーツ概論」を新たに開講した。	3.4	・4年制大学進学を目指す生徒への取組の充実を図ってください。 ・大学でも、商業高校出身者の数学の基礎力不足が課題となっている。数学科目の必要性を伝えていってください。 ・大学には、各国からの留学生が在籍している。大学生との交流の機会を設けてはいいかと。コロナ満であったも、場合によってはオンラインで交流することも可能であると思う。	・4年制大学への進学も見据えた選択科目の検討を今後も進めていく。 ・大学生との交流により、課題研究の深化や社会性の伸長等、見込めるものも多い。学校間、校種間連携について学校として検討していく。
安全・地域・安心で共に楽しい子供を学校を築き、		①いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)		・対策委員会が定期的に実情分析することが必要。SCの協力も欠かせない。 ・いじめアンケートを実施することで、状況を可視化することができている。 ・学期に一度の会議を行い、現状の生徒の把握を行った。 ・週1回の指導部会で、生徒の情報共有を行った。	3.5	・基本方針の定期的な見直しを今後も行う必要がある。 ・被害生徒に寄り添う指導方法を教員間で共有を。	・法の理解を徹底し、徒来感覚で指導しないようにしていくことが肝要。 ・生徒支援を軸とした生徒指導を展開する。いじめについてはフローを見直し、校内外に周知するよう検討する。
		②超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得		・感染対策を含め、日常的に速やかな退勤を呼び掛けている。 ・休暇の積極的取得を呼び掛け、取得率も向上している。 ・19:00施錠を呼び掛け、概ね達成している。	3.4	・業務内容の見直し、生徒の成長に不可欠かどうか、業務の見極めを。	・教育現場の旧態依然の部分を見直し、改革を進めてほしい。
		③新型コロナウイルス感染症関連		・速やかな情報収集と市教委報告を心がけ、迅速な対応を心がけている。 ・全教室に空気清浄機を設置し、生徒の健康保持に努めている。 ・教職員による学校施設の定期的な抗ウイルス・抗菌剤の塗布作業の実施により、感染予防への意識の向上を図るとともに、生徒が安全・安心に学校生活を送ることができている。	3.2	・定期的な消毒抗菌作業の、教員負担軽減を検討すべき。 ・市教委通知に基づく生徒対応の共通理解を。	・生徒及び教員の健康を最優先し、環境整備と感染対策に取り組んでほしい。
		④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信		・HPを毎日更新し、在校生、中学生に向けたリアルタイムな発信をしている。 ・感染症にかかると学級閉鎖や、検定実施についての連絡として日々活用している。	3.8	・知りたい情報が見られるよう、発信内容と頻度のさらなる充実を。 ・ホームページの更新頻度が高く、大変充実している。 ・学校生活が良く見えるようになっており、中学生はもちろん、在校生、その保護者、地域住民等が関心を持っているものとなっている。 ・御校のHPIは、時々拝見させていただいております。昨日の卒業式の様子もアップされておりました。素晴らしいと感じます。今後ともタイムリーな情報をアップして、御校の魅力を発信し続けてください。神戸を担う人材の育成とともに、御校の益々の発展を祈念いたします。 ・ホームページの更新頻度が高く、大変充実している。学校生活が良く見えるようになっており、中学生はもちろん、在校生、その保護者、地域住民等が関心を持っているものとなっている。 ・学年通信の2年、3年と、1年の差があり過ぎではないでしょうか？4月の先生の紹介は欲しいです。来年度は期待しております。	・HPIは情報収集の一番の窓口であり、さらに充実を図ってほしい。 ・中学生や保護者が何を知らないと考えているのか、定期的なリサーチをもとにさらに充実させていく。 ・生徒の活動がより広く周知されるよう、各部置に広報担当を配置し、より一層の充実を図る。 ・新学年主任に、適切な情報発信を促していく。
		⑤登下校時の見守り運動(PTA・青少協など)		・最寄り駅までの自転車利用に関して、定期的に交通安全指導を行っている。 ・学校付近は、交通量が多く、道幅が狭いため横断歩道等に教員が立ち、見守りを行った。	3.5	・登校時の表情観察は大切、今後も続けたい。	・下校時の安全指導、マナー指導の継続をぜひお願いしたい。
		⑥学校生活のルールや決まり(校則など)について		・文科省及び市教委からの通知を基に、社会情勢や生徒の実情に相応しいルールへと改訂作業を進めている。生徒も参画し、意見を集約しながら、令和5年度施行を目指す。 ・校則の見直しのため、改訂委員会を設置し見直し作業を行った。 ・生徒会、風紀委員会を中心に校則の見直し会議を行った。	3.0	・令和の時代に相応しいルールを作るため、教員、生徒がお互いに意見を交わして、次年度施行に向けて取り組んできた。 ・学校評議員会の資料に、令和5年度に生徒指導内規が運用開始となっている。問題なく運用が開始できるのであれば、自己評価は高くなると思われるが、やはり他の項目と比べて低いように思う。まだ内容が確定していないのか、一部未整備の部分があるのかわからないが、非常に重要な項目であるので、しっかりと取り組んでもらいたい。	・運用に際し、生徒・保護者・教員が、ルール設定の意図や意義を理解し、社会性伸長のために遵守していく姿勢を構築したい。 ・先進校視察を含め、生徒を交えて新ルールを検討してきたが、実行するにあたり、そのルールの意味や目的を教員と生徒双方が理解し、意識統一したうえで運用していきたい。